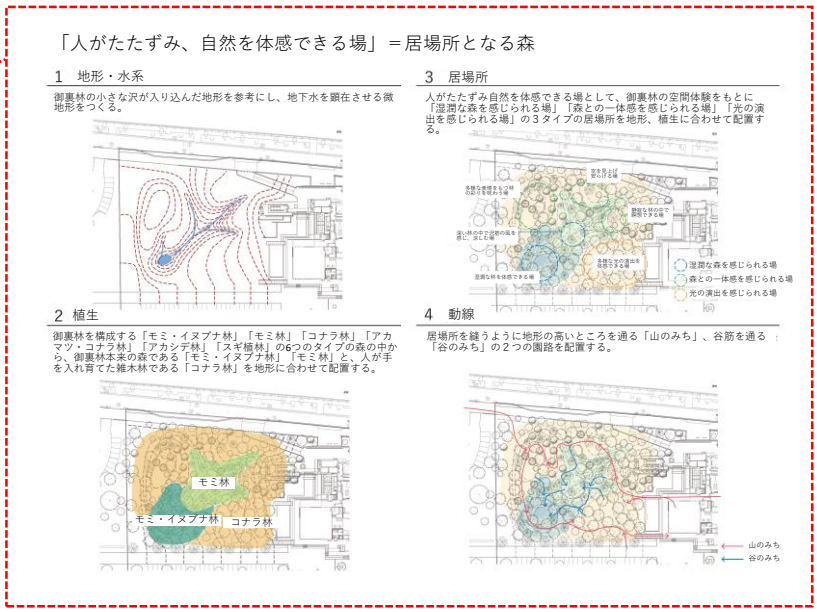
青葉山公園における雨庭の整備について

青葉山公園追廻地区のもりの庭園整備について

もりの庭園は、公園センター南側に、御裏林を想起させる「居場所となる森」を整備するもの。

右図のとおり、人がたたずみ、自然を体感できる場を目指し、御裏林の地形、林の構成を参考とした基盤をつくり、そこに居場所となる場を配置し、その場を縫うような動線計画としている。



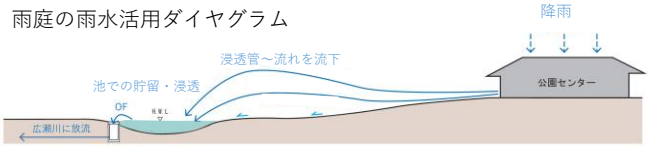
もりの庭園における雨庭の整備について

もりの庭園の特徴として、御裏林の小さな沢を参考にした流れをつくり、公園センターへの降雨を活用する整備としている。流れから最終の池部までを降雨時には雨水が流れる「雨庭」として、季節や時間帯によって多様な表情をみせる景観装置および暑熱緩和や雨水貯留機能を発揮する環境装置として整備する。

「雨庭」とは、地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく、一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った緑地。
雨水流出抑制、修景・緑化の推進、ヒートアイランド現象の緩和などが期待される。

※京都市ホームページより抜粋

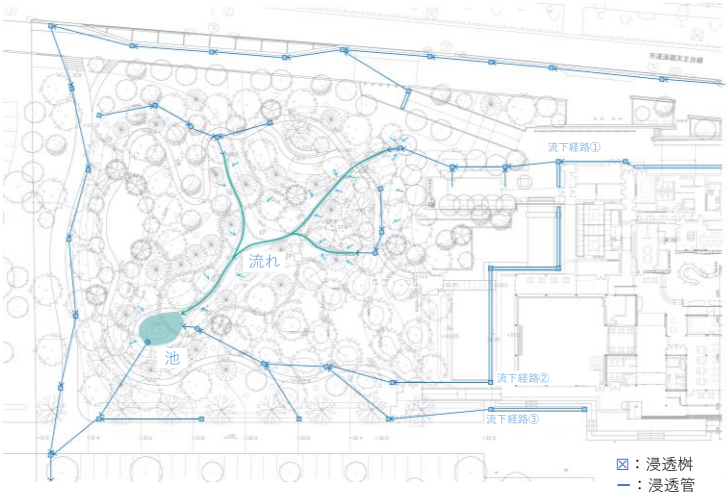
雨庭の雨水活用ダイヤグラム



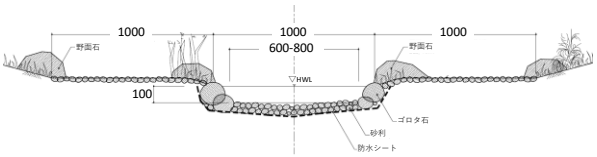
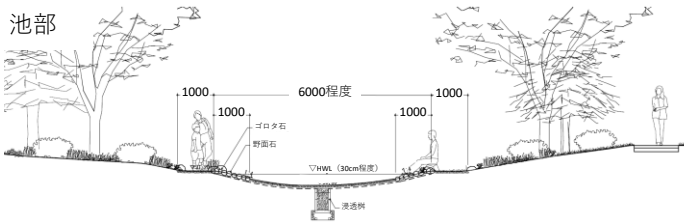
雨庭の整備計画は平面図及び断面図のとおり、谷地形箇所に石材を用いた流れ、流末部には池を設け、各底面は浸透性として、降雨時に流入した雨水が浸透し、オーバーフローした水が排水される計画としている。

今回整備を行なう雨庭は、もりの庭園の水景施設としての修景効果を主たる目的としながらも、近年求められている雨水流出抑制の取組みの一環として緑地内に集水、浸透、貯留を行なうものである。雨庭単体のみであると貯留機能は多くはないが、公園全体をグリーンインフラとしてとらえる中での、モデルケースとして機能展開を促進するものである。

平面図



断面図
流れ部



池部